

# 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会報告書

平成 29 年9月

# 目次

## 第1部 2023年技能五輪国際大会の誘致について.....2

1. 技能五輪国際大会とは
2. 検討の経緯
3. 2023年国際大会誘致の意義
4. 愛知県を国際大会の候補地とする意義
5. 国際大会のテーマ及び方向性
6. 国際大会の開催効果
7. 国際大会の具体的な取組イメージ

## 第2部 2023年国際大会の開催に係る検証について.....6

1. 開催場所
2. 開催時期
3. 輸送、宿泊計画
4. その他
5. 今後のスケジュール

## 第3部 結び.....7

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会設置要綱.....9

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会構成員名簿.....10

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会 開催経過.....11

日本再興戦略における技能五輪国際大会の招致に関する記述.....12

技能五輪国際大会 過去の開催実績.....13

別添資料1 2023年技能五輪国際大会基本構想

別添資料2 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ報告書

## 第1部 2023年技能五輪国際大会の誘致について

### 1. 技能五輪国際大会とは

技能五輪国際大会(以下「国際大会」という。)は、国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、22歳以下の若年技能労働者の国際交流と親善を図ることを目的とする大会である。1950年にスペインのマドリッドで第1回国際大会が開催されたことをきっかけに、昨今では2年に1回の頻度で開催されている。日本は1962年の第11回国際大会から参加しており、これまでに、1970年の第19回大会を千葉で、1985年の第28回大会を大阪で、2007年の第39回大会を静岡で開催した。

### 2. 検討の経緯

平成28年6月に閣議決定された「日本再興戦略2016」において、多面的アプローチによる人材の育成・確保を推進し、第4次産業革命という大変革を見据え、未来投資である人材力の強化の観点から新たな取組を進めていく必要があるとされた。この取組の一つとして、技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、本年度年央までに結論を得ることとされたところである。

これを踏まえ、平成29年1月に本検討会を設置し、国際大会を日本に誘致する際の意義やコンセプトについて議論を行った。3月に開催した第2回検討会では愛知県が策定した「2023年技能五輪国際大会基本構想」(以下「基本構想」という。)の提案を受け、開催候補地を愛知県に仮決定した。本年4月にはワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置し、基本構想に基づき、ワールドスキルズインターナショナル(以下「WSI」という。)が設定する開催のための諸条件を満たすことができるかについて検証を行った。

本報告書はこれらの議論を総括して取りまとめたものである。

### 3. 2023年国際大会誘致の意義

2023年に開催予定の第47回国際大会を日本に誘致する意義は、以下のとおり「レベルアップ」「発信」「盛り上げる」の3つの視点から整理できる。

#### (1) 日本をレベルアップする

##### ＜大会参加者をレベルアップ＞

- ・全国大会で金メダルを獲得した若者が、世界を相手に更に腕を上げる機会であり、企業の支援や地元からの応援を背に、地の利も活かしつつ、能力を最大限に発揮することが期待できる。国際大会で優秀な成績を収めることにより、一人一人の今後の自信となる。また、世界のレベルを知ることで自分自身の将来へのビジョンも構築できる。

#### <若者をレベルアップ>

- ・国際大会に参加できなかった若年技能者も、世界トップレベルの技能を直接見て、体感することにより、自らの技能を高める努力のインセンティブとなるとともに、今後の目標を高める機会となる。

#### <企業をレベルアップ>

- ・代表権獲得意識の高まりにより企業で働く技能者が切磋琢磨して技能を磨き、企業の技能レベル全体が向上することで、企業の競争力が高まり、企業活動の拡大につながる。

#### <働く人々をレベルアップ>

- ・少子高齢化や人口減少の流れの中で、成長と分配の好循環を拡大していくためには、働き方改革の実行に加えて人材への投資を通じた労働生産性の向上が必要とされ、「経済財政運営の基本方針 2017」において「人材への投資を通じた生産性の向上」が副題であり課題とされた。我が国での国際大会開催は社会全体で人材投資を抜本強化する契機となる。

#### <次世代をレベルアップ>

- ・小中学生の子どもたちが、国際的な技能競技大会を観戦することにより、ものづくり分野での活躍を将来の夢として描く契機となる。

#### <人的ネットワークをレベルアップ>

- ・ものづくり分野の若者たちが、技能を通じて世界の若者と交流することにより、グローバルな視点を持ち、これからの産業活動に役立つ人的ネットワークが構築される。

### (2) 日本を発信する

#### <技能・技術を発信>

- ・我が国製造業の労働生産性は国際的に見ても高く、歴史的・伝統的な分野から AI やロボットなどの最先端分野まで、日本の産業を支える技術・技能を幅広く紹介すること等により、人的能力と技術力が融合した新たな姿を世界に発信し、これらを基盤とした我が国の高い経済的ポテンシャルに対する評価を確立する。

#### <オリジナリティを発信>

- ・歴史的に日本の産業活動の基礎を支えてきた伝統的な技能が、現代においても有効であることを示し、効率のみを重視する世界的スタンダードに一石を

投じるとともに、技術・技能分野における日本独自の価値観や人材育成の取組を積極的に発信する。

- ・おもてなしに代表されるような「和の心」は日本の技能に深く根付いており、高品質な財を作り出す源泉となっている。日本において国際大会を開催することで、この「和の心」を体感するきっかけとなる。
- ・日本のものづくりは多くの中小企業に支えられており、独創的で優れた技能を有している。技能への関心の高まりを背景に、中小企業の国際大会への参画を推進し、自社の技能を発信する機会とする。

#### <取組を発信>

- ・今後、工業化を進めようとする開発途上国に、戦後の高度成長を支えてきた「日本のものづくり分野」で働く技能者の育成の歴史を紹介する。
- ・世界でも有数の高齢化が進む社会において、次世代への技能の伝承や若い人材の育成に向けた積極的な取組を紹介し、今後先進国を中心に加速する高齢化への対応をリードする。

#### <魅力を発信>

- ・様々な国から多くの人々が来日する機会になることから、我が国の文化や伝統的な技能に触れ、直接日本の魅力を感じてもらうことができる。

#### <運営力を発信>

- ・国際大会への参加国が増え、大会規模が拡大する中、開催経費も拡大の一途をたどっている。将来における国際大会の持続的な開催についての懸念を払拭できるよう、効率的でコンパクトな大会を計画し、我が国の運営力の高さを世界に示す。

### (3) 日本を盛り上げる

#### <社会を盛り上げる>

- ・我が国で国際大会を開催することにより、ものづくり分野の若者が国際的な舞台上で活躍する姿に、多くの国民が注目することとなり、技能に対する社会的な評価を高め、技能尊重の機運が醸成されるとともに、日本社会の将来の発展に対する希望を高める。

#### <国際化を盛り上げる>

- ・日本を訪れる参加者や大会関係者と、地元を中心とした様々な人々が交流ができる機会を積極的に設けることにより、人々が国際的なつながりの楽しさを実感する機会となり、我が国社会の国際化への貢献につながる。

＜東京 2020～愛知 2023～大阪 2025 を盛り上げる＞

・2020 年東京オリンピック・パラリンピック、2023 年愛知技能五輪国際大会、2025 年大阪万国博覧会（招致中）の3つの大会の有機的な連携を図り、スポーツ、技能・技術、産業活動というそれぞれの側面から、人間の能力や働くという人の根源的な営みとその未来を考えるきっかけとする。これらの3つの一連のイベントで、包括的に現在の日本の姿を世界に発信し、我が国の国際的なステータスを確立するとともに、21 世紀の最初の四半世紀の集大成として、我が国社会の活力を向上させる。

#### 4. 愛知県を国際大会の候補地とする意義

愛知県は、古くからものづくり産業が発展し、第3次産業革命による産業構造の転換にも対応した地域であり、今も日本の製造業を牽引している。また、愛知県は技能士の数が日本一であり、毎年開催される技能五輪全国大会でも愛知県が選出した選手団は非常に優れた成績を残しており、日本の技能の中心地と言っても過言ではない。このような地域性に加え、2019 年、2020 年に技能五輪全国大会を愛知県で開催した上で国際大会を開催することは、参加選手強化の面で有利であることから、より効果的に日本全国へ技能の重要性や魅力を力強く発信することが期待される。

さらに、愛知県は 2005 年日本国際博覧会（愛・地球博）を開催した実績もあり、国際的なイベントを運営する十分な能力を有していると考えられる。

#### 5. 国際大会のテーマ及び方向性

我が国で開催する国際大会は、技能分野が抱える課題の解決策を提示し、次代を担う若者に夢と希望を抱かせる機会とするとともに、産業構造の転換期を乗り越えた新しい姿を示す場とすることが重要である。

このため、国際大会のテーマは「技能が拓く世界の未来」を候補としつつ、「技能をめぐる対話」を通じて解決策を模索し、提示する等の具体的な方向性も含め、引き続き検討するべきである。

#### 6. 国際大会の開催効果

国際大会の開催効果としては、以下のものが見込まれる。

- ① 国際大会を通じて、国際競争力を持つ人材の育成が進み、国内産業の持続的な発展につながる。また、人材投資、技能への関心が高まることで労働生産性の向上、海外進出先国も含めた産業を支える人材の育成・確保が図られる。
- ② 世界各国のトップレベルの技能者と、日本企業や日本人労働者との交流が生まれ、新たな人脈の形成や事業展開につながる。
- ③ 初等・中等教育段階の子どもたちが国際大会に身近に接し、ものづくりに触れるきっかけを提供することで、ものづくりへの興味関心を喚起し、職業教育の充実が図られる。

- ④ 技能への理解が深まることで、技能者の社会的・経済的地位の向上を促し、日本のものづくりの発展に寄与する。
- ⑤ 世界中から選手、企業関係者、学校関係者、観客が集まるため、経済活動が活性化化する。

## 7. 国際大会の具体的な取組イメージ

国際大会の意義や見込まれる効果を踏まえ、以下のような取組が考えられる。

- ① 国際大会の会場内外において、競技内容や技能の「見える化」を図るとともに、参加型のプログラムを用意する等、普段は技能に関わっていない来場者であっても技能の奥深さや魅力が理解できるような仕掛けをつくる。
- ② 企業や経済団体等への働きかけを通じて、国際大会への関心を高め、積極的な参加を促すとともに、我が国の伝統文化、先端技術を体験できる機会を設ける。
- ③ 国際大会の場を活用し、関係省庁の連携のもと、産業人材育成に係る施策や職業教育に係る施策の充実を図る。
- ④ 参加者同士の交流を促進する機会を設けるほか、参加者が楽しめる大会となるよう、地域産業や地元の人々との連携を重視し、愛知県の魅力を発信するイベント等を準備する。
- ⑤ 国内外の技能競技大会との有機的な連携を推進するとともに、多様なメディアを活用した積極的な広報活動により認知度の向上を図る。

## 第2部 2023年国際大会の開催に係る検証について

### 1. 開催場所

国際大会の開催地は、人口や経済規模が国際大会を開催するにふさわしい規模であり、かつ、技能を尊重し技能を楽しむ地域性を持っていることが望ましい。愛知県は上記の要件を満たすとともに、技能士の数が日本で最も多く、日本有数の産業の集積地となっており、国際大会を盛り上げる素地がある。

基本構想においては、国際大会の会場候補を中部国際空港に隣接して設置される予定の国際展示場としている。この国際展示場は、敷地面積 28.7ha、建築面積 8.6 万㎡となっており、仮設建築物を活用することで、国際大会に必要とされる会場規模の要件は満たすものと考えられる。

### 2. 開催時期

基本構想に基づき、温度、湿度ともに快適で、比較的天候が安定している 2023 年の 10～11 月とすることが適当である。

### 3. 輸送、宿泊計画

愛知県は中部国際空港を有している。この空港はソウル、香港、シンガポール経由でアジアや欧米の主要ハブ空港からアクセスが容易であり、東京や大阪からは新幹線等の公共交通機関を使用することが可能である。また、名古屋を中心に宿泊施設も充実している。愛知県は、これまでも2005年日本国際博覧会を開催するなど、国際イベントを開催した実績が多数あり、輸送・宿泊インフラに支障はないと考えられる。ただし、宿泊場所から競技会場への移動手段は原則としてバスを使うことを見込んでおり、選手等の到着は一定の時間に集中することが予想されるため、円滑な移動が可能となるよう、乗降場所の設定や交通整理の方法については、詳細な検討が必要である。

### 4. その他

国際大会の開催に当たっては、産業の集積地であるという愛知県の立地を活かし、テーマに沿った独自性のある併催イベントやエクスカージョンを提供するとともに、積極的な広報活動を行う必要がある。

また、国際大会で生まれたムーブメントを一過性のものとしないう、持続可能な仕組みづくりを行うことが重要である。

### 5. 今後のスケジュール

2023年に開催予定の第47回国際大会については、開催要綱が明らかになっておらず、詳細な日程は不明であるが、例年のスケジュールに基づく以下のとおり。

- ・2018年秋頃のWSI総会において国際大会を主催する意思を表明
- ・2019年初頭にWSI事務局へプロポーザルシートを提出
- ・2019年夏にロシア連邦のカザンで行われるWSI総会において第47回国際大会の開催地を決定

## 第3部 結び

ものづくりは長年日本の経済成長を牽引してきた。我が国の製造業の労働生産性は国際的に見ても高く、その上昇率も依然として大きい。人口減少、少子高齢化の中で、今後の日本経済を更に発展させるためには、労働生産性の向上が不可欠である。このため、低生産性部門の改善だけでなく、第4次産業革命、Society5.0を見据え、製造現場等でのこれまでの強みを更に発展させていく必要がある。そのカギとなるのが未来への先行投資たる人材への投資であり、これを社会全体として強化していかなければならない。

しかしながら、企業による教育訓練投資は減少を続けている。新たな技術は、普遍的な価値を持つ技能が基盤に存在してこそ、実現できる。国際大会は、世界のトップレベルの若者が技能を競う大会であり、若手技能者が己の技を磨く意欲を高める機会というだけでなく、それを通じて人を育てること、企業が人材への投資の重要性を再認識する機会となる。また、少子高齢化やサービス業の拡大等を背景に、ものづくり分野でも



後継者不足が深刻となっている。これまで我が国が培った高い技能を次世代に確実に継承し、一層の高度化を目指すため、若者の技術・技能への関心を高めるとともに、切磋琢磨して技を磨く環境を充実させることが重要である。

さらに、国際大会を我が国で開催することは、国際的な注目度を高め、日本の魅力を強く発信するとともに、日本人にとっても国際意識を高める機会となる。

上記を踏まえ、愛知県や関係労使の協力を前提に 2023 年の国際大会を我が国で開催することを求めたい。

## 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会設置要綱

### (開催目的)

第1条 2023年(平成35年)以降に開催される技能五輪国際大会(以下「国際大会」という。)の誘致に向けて、基本方針、運営の在り方等について検討を行うため、「技能五輪国際大会誘致に向けた検討会」(以下「検討会」という。)を開催する。

### (検討事項)

第2条 検討会は、国際大会の運営に関する次の事項について、専門的見地から検討を行い、誘致について助言を行う。

- 一 基本方針、運営、広報等の在り方に関すること
- 二 開催候補地に関すること
- 三 その他大会の運営等に関する重要な事項

### (参集者)

第3条 構成員は、国際的なイベントの開催、ものづくり、技能等の各分野について専門的な見識を有する者のうちから職業能力開発局長(※1)が参集する。

※1 平成29年7月の組織再編により現在は人材開発統括官。

### (スケジュール)

第4条 平成29年1月から検討を開始し、平成29年度年央を目処に最終的なとりまとめを行う。なお、必要に応じ中間的なとりまとめを行う。

### (座長)

第5条 座長は構成員の互選により選任する。

- 2 座長は会議を主宰する。
- 3 座長に事故のあるときは、座長があらかじめ指名する構成員がその職務を代理する。

### (招集)

第6条 座長は必要に応じて、構成員以外の者を招聘し、意見の陳述を行わせることができる。

### (守秘義務)

第7条 構成員及び構成員であった者は国家公務員法(昭和22年法律第120号)に準拠し、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

### (庶務)

第8条 検討会の庶務は職業能力開発局能力評価課(※2)において処理する。

※2 平成29年7月の組織再編により現在は人材開発統括官付能力評価担当参事官室。

### (補則)

第9条 この要綱に定めるものの他、検討会の運営に必要な事項は座長が定める。

## 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会構成員名簿

### 【学識者】

- ◎ あかまつ あきら  
赤松 明 ものづくり大学 学長
- かきもと あきら  
垣本 映 職業能力開発総合大学校 教授

### 【使用者団体】

- あいづ たけし  
会津 健 東京都塗装工業協同組合 理事長
- たかの ひろゆき  
高野 浩幸 キヤノン（株）人事本部 ヒューマンリレーションズ  
推進センター ヒューマンリレーションズ推進部長

### 【労働者団体】

- おぐら のりゆき  
小倉 範之 全国建設労働組合総連合 技術対策部 部長
- たかくら あきら  
高倉 明 全日産・一般業種労働組合連合会 会長

### 【技能五輪参加企業】

- えとう しんじ  
江藤 伸二 日産自動車(株) 人事本部 人財開発／HR  
プロセスマネジメント部 人財開発グループ 課長

### 【イベント企画・メディア広報専門関係】

- さわだ ゆうじ  
澤田 裕二 (株)SD 代表取締役
- みずの なおき  
水野 直樹 (株)NHK エンタープライズ グローバル事業本部事業  
開発センター イベント・映像展開 担当部長
- むらかみ ようすけ  
村上 洋介 NHK 制作局科学環境番組部 チーフ・プロデューサー

### 【技能五輪関係者】

- いまい ゆうた  
今井 悠太 (株)デンソー技研センター 移動式ロボット職種エキスパート
- やまだ りょう  
山田 亮 中央職業能力開発協会 理事

(五十音順・◎座長)

## 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会 開催経過

### 第1回 2017年1月19日(木)

- (1) 国際大会の誘致について
  - ・大会開催のメリット
  - ・大会運営の在り方等
- (2) 我が国で開催する場合のコンセプト等について
- (3) その他

### 第2回 2017年3月24日(金)

- (1) 開催希望自治体からのヒアリング
  - ・愛知県
- (2) 今後の議論の進め方について

### 第3回 2017年7月27日(木)

- (1) 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ報告書及び検討会報告書(案)について
- (2) 今後の誘致活動の進め方について

※ 議事概要等の掲載 URL はこちら↓

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syokunou.html?tid=408767>

## 日本再興戦略における技能五輪国際大会の招致に関する記述

### 日本再興戦略2016（平成28年6月2日閣議決定）〔抄〕

#### Ⅲ イノベーション・ベンチャー創出力の強化、チャレンジ精神にあふれる人材の創出等

##### 2. 多面的アプローチによる人材の育成・確保等

###### 2-1. 人材力の強化

###### (2) 新たに講ずべき具体的施策

###### iii) 企業の人材管理の促進

- ③ 未来を創る若者の雇用・育成のための総合的対策の加速化（「セルフ・キャリアドック」の導入・促進等）

未来を担う若者が、職業生活において自身の能力や個性を発揮できる環境の実現を目指す。

～中略～

また、生産性の高いものづくり分野の人材育成のため、若者の技能検定の受検料の減免を速やかに検討し本年内に結論を得るとともに、技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、来年度年央までに結論を得る。

## 技能五輪国際大会 過去の開催実績

(単位：国、人、個)

回数	開催年(和暦)	開催国・地域	参加国 地域数	総参加 選手数	日本派遣 選手数	日本選手成績		
						金	銀	銅
第1回大会	1950年(昭和25年)	スペイン・マドリード	2	24				
第2回大会	1952年(昭和27年)	スペイン・マドリード	2	16				
第3回大会	1953年(昭和28年)	スペイン・マドリード	6	65				
第4回大会	1955年(昭和30年)	スペイン・マドリード	6	82				
第5回大会	1956年(昭和31年)	スペイン・マドリード	8	88				
第6回大会	1957年(昭和32年)	スペイン・マドリード	8	128				
第7回大会	1958年(昭和33年)	ベルギー・ブリュッセル	10	144				
第8回大会	1959年(昭和34年)	イタリア・モデナ	9	150				
第9回大会	1960年(昭和35年)	スペイン・バルセロナ	7	173				
第10回大会	1961年(昭和36年)	西ドイツ・デュイスブルグ	11	182				
第11回大会	1962年(昭和37年)	スペイン・ヒホン	10	199	8	5	1	0
第12回大会	1963年(昭和38年)	アイルランド・ダブリン	12	227	14	10	0	2
第13回大会	1964年(昭和39年)	ポルトガル・リスボン	12	199	17	12	4	0
第14回大会	1965年(昭和40年)	イギリス・グラスゴー	11	200	19	6	5	2
第15回大会	1966年(昭和41年)	オランダ・ユトレヒト	11	212	20	9	3	2
第16回大会	1967年(昭和42年)	スペイン・マドリード	11	218	20	5	7	2
第17回大会	1968年(昭和43年)	スイス・ベルン	14	246	20	6	2	5
第18回大会	1969年(昭和44年)	ベルギー・ブリュッセル	15	260	23	9	2	4
第19回大会	1970年(昭和45年)	日本・千葉	15	274	30	17	4	3
第20回大会	1971年(昭和46年)	スペイン・ヒホン	15	273	26	10	3	5
第21回大会	1973年(昭和48年)	西ドイツ・ミュンヘン	15	281	27	5	5	8
第22回大会	1975年(昭和50年)	スペイン・マドリード	17	291	26	4	7	5
第23回大会	1977年(昭和52年)	オランダ・ユトレヒト	16	267	26	7	4	3
第24回大会	1978年(昭和53年)	韓国・釜山	14	239	27	1	5	6
第25回大会	1979年(昭和54年)	アイルランド・コーク	14	276	28	7	8	1
第26回大会	1981年(昭和56年)	アメリカ合衆国・アトランタ	14	266	28	5	8	4
第27回大会	1983年(昭和58年)	オーストリア・リンツ	18	309	28	4	5	4
第28回大会	1985年(昭和60年)	日本・大阪	18	307	34	11	8	4
第29回大会	1988年(昭和63年)	オーストラリア・シドニー	19	354	30	6	0	3
第30回大会	1989年(平成元年)	イギリス・バーミンガム	21	382	27	3	6	1
第31回大会	1991年(平成3年)	オランダ・アムステルダム	21	411	26	4	2	2
第32回大会	1993年(平成5年)	チャイニーズタイペイ・台北	25	434	27	2	6	5
第33回大会	1995年(平成7年)	フランス・リヨン	28	474	28	4	3	1
第34回大会	1997年(平成9年)	スイス・ザンクトガレン	30	549	29	2	0	4
第35回大会	1999年(平成11年)	カナダ・モントリオール	33	625	34	6	3	2
第36回大会	2001年(平成13年)	韓国・ソウル	35	616	33	4	2	4
第37回大会	2003年(平成15年)	スイス・ザンクトガレン	37	585	34	6	2	4
第38回大会	2005年(平成17年)	フィンランド・ヘルシンキ	38	696	36	5	1	2
第39回大会	2007年(平成19年)	日本・静岡	46	812	51	16	5	3
第40回大会	2009年(平成21年)	カナダ・カルガリー	46	845	45	6	3	5
第41回大会	2011年(平成23年)	イギリス・ロンドン	52	944	44	11	4	4
第42回大会	2013年(平成25年)	ドイツ・ライプツィヒ	53	986	45	5	4	3
第43回大会	2015年(平成27年)	ブラジル・サンパウロ	59	1189	45	5	3	5
第44回大会	2017年(平成29年)	アラブ首長国連邦・アブダビ						
第45回大会	2019年(平成31年)	ロシア・カザン						